No.27 東京モーターショーニュース
2003年11月6日発行
JAMA

第37回東京モーターショー盛況裏に閉幕

総入場者数140万人を突破

12年ぶりに“歯止め―反転”新型モーターショー

お客様参加型の新しいステージとなった第37回東京モーターショー ―乗用車・二輪車―は11月5日、盛況裏に幕を閉じた。会期13日間で総入場者は142万人と前回(127万人)を大きく上回り、不況による入場者減に歯止めをかけたばかりか、自動車産業の販売トレンドを上向かせるきっかけにつなげたことは大成功だった。ショーを盛り上げたのは展示車両の充実と同時に、これまでの“見せるショー”から「お客様参加・体験型ショー」に衣替えをした新型モーターショーの成果とも言えそうである。

さて今回のショーを総括するに、まず外国人来場者がこれまでになく多く国際色を一段と強めていたことである。特にプレスデー2日間に取材に訪れた内外報道関係者は前回を上回る12,300人、うち海外取材陣は4,700人を数えた。自動車産業のグローバル化の影響もあるが、中国自動車産業の急成長からアジア系報道陣が多く見られたことも見逃せない。

展示車に対する来場者の評判も良かった。世界初、日本初の出展は四輪・二輪車合わせて192、世界トップクラスの豪華さが来場者の関心を高めた。内容的にも最先端技術を駆使した「環境への配慮」、またクルマ本来の走る歓び・使う楽しさを出品各社がそれぞれの個性でしっかりと打ち出していた。そうしたクルマづくりに感動したのか「見応えがあった」「新しさを感じた」など来場者からたくさんの好意的な反応があった。

新型モーターショーへの試みは、こうした出品各社の努力、取り組みをできるだけ多くの人に理解してもらうことにつながった。会期を通じて来場者が増え続けていたことは、その試みが成功したことを裏付けた。次代ユーザーである小学生以下の入場無料、高校生半額によって、会場には連日若者やファミリーが多く見られたのも、そうした効果だった。また会場内のあらゆる施設を活用した特別企画も大好評だった。

クリーンエネルギー車の同乗試乗会やトラフィック戦隊アンゼンジャーショー、ライブ・クッキングショーのフィエスタ・マリスコスなどは連日フル稼働。カロッツェリア展示やシンポジウムも大入りの盛況だった。

ショー閉幕に当たり自工会・宗国会長が会見

「ショーは大成功。次回以降も新スタイルのコンセプトを継続」

日本自動車工業会の宗国旨英会長は11月5日夕刻、第37回東京モーターショーの閉幕に当たってショー会場の幕張メッセ内国際会議場で記者会見し、140万人としていた入場者目標を突破するとともに、特別企画などによって大きな盛り上がりをみせたことから、「今回の東京モーターショーは意義のあるショーになった」と述べた。

宗国会長は、来場者が目標を突破した点について、「新規来場者の増加などにより、過去12年間続いていた来場者の減少傾向に歯止めをかけ、プラスに転じた」と強調。また、ショーの内容についても、出品各社の環境・安全・ITなどバランスのとれた多彩な展示と「お客様参加・体験型」で「双方向コミュニケーション」を実現する特別企画が評価されたことに触れ、「東京モーターショーが確かに変わったと感じてもらえたと思う」と語った。

会見に臨む宗国会長(中央)と右・鈴木副会長、左・加藤理事

今回の東京モーターショーは、自工会が企画段階から取り組んだ初めての乗用車・二輪車ショーだったが、来場者目標を突破するとともに高い評価が得られたことから、次回以降においても、「参加・体験型という新しいスタイルのコンセプトを継続し、より楽しめるモーターショーにしていきたい」と述べた。

モータースポーツのあるライフスタイル ～みんなでサーキットに行こう～

シンポジウム

（11月5日開催）

出演者　ヒロミ氏（タレント）
高木 理恵氏（DJ）
今宮 純氏（モータースポーツジャーナリスト）
土屋 圭市氏（レーシングドライバー）
脇坂 寿一氏（レーシングドライバー）

第37回東京モーターショーの特別企画として連日（日祝日を除く）のように開かれた「シンポジウム」。18ものテーマで、未来へ向けた自動車産業のあり方を様々な角度から訴求し続けてきたが、そのフィナーレを飾ったのがこのシンポジウム。

会場をこれまでの国際会議場から屋外のフェスティバルパーク内にある特設ステージに移し、レーシングドライバーの土屋、脇坂両氏、F1レースの解説者としても活躍中の今宮氏をゲストに迎え、華やかで楽しさあふれるトークショーが行われた。

司会進行は人気タレントのヒロミ氏とテンポのよい軽快なトークで多くのリスナーから支持を集めている高木さんがそのアシスタント役。2人が登場した瞬間、ヒロミ氏から「ところで、理恵ちゃん、今日のイベントって何だか知ってる？」と、いきなり“大ボケ”。ステージ前に集まった1,000人を超える来場者たちが大爆笑。ステージ中央の大型スクリーンには、土屋、脇坂選手の思い出のレースシーンなどが映し出される中で、モータースポーツの醍醐味であるスリリングで迫力あるエピソードを披露し、今宮氏と大のモータースポーツ好きでも知られるヒロミ氏たちが新しいライフスタイルとしてのレース観戦などを語り合った。

ヒロミ氏（右）と高木 理恵氏（左）

左から今宮 純氏、土屋 圭市氏、脇坂 寿一氏

「モータースポーツ大賞」に菅谷 充氏、「特別賞」に上津江村（大分県日田郡）

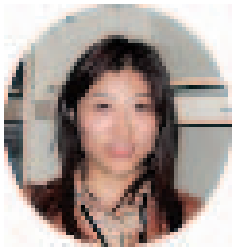
第37回東京モーターショーもいよいよ大詰めを迎えた5日午後6時すぎから、特設ステージではシンポジウムに続いて「モータースポーツ大賞」の表彰式が行われた。

この賞は、東京モーターショーが来年で50周年を迎えることを記念して創設されたもので、「モータースポーツを身近なものとして社会的に広めることに貢献した人物・団体」に贈られるもの。

大賞には、モータースポーツをテーマとする仮想歴史小説「旭日のGP」をはじめ、書籍、雑誌、ネット媒体などで大活躍の作家で漫画家の菅谷充氏、また、特別賞には、九州のサーキット「オートポリス」の復興に貢献した大分県日田郡上津江村を選出。日本自動車工業会の宗国旨英会長が、菅谷氏と上津江村の高畑龍之助村長に各々大賞と特別賞を授与した。

宗国会長より表彰される菅谷 充氏（右）

記者の目



毎日新報
门莉娜（モン・リーナ）さん（中国）

すっきりした印象で雰囲気も良い

東京モーターショーの取材は初めて。「何もかも至れりつくせりで、言うことはありません」と少し驚きを交えながらの発言。毎日新報は経済紙で、発行部数は70万部という。

最近は中国も車ブームで、一般の市民の間でも車に対する関心が高いと現状を説明してくれた。ご自身も車を運転されるということで、とくにトヨタのPM、ダイハツのaiに惹かれたという。

このショーを取材して日本の車はもちろんヨーロッパ、アメリカの車を紹介していきたいと意欲満々。ただ最後に「プレスセンターのパソコンに中国語がはいっていなかった」とちょっぴりご不満の様子。

第38回東京モーターショー 開催概要

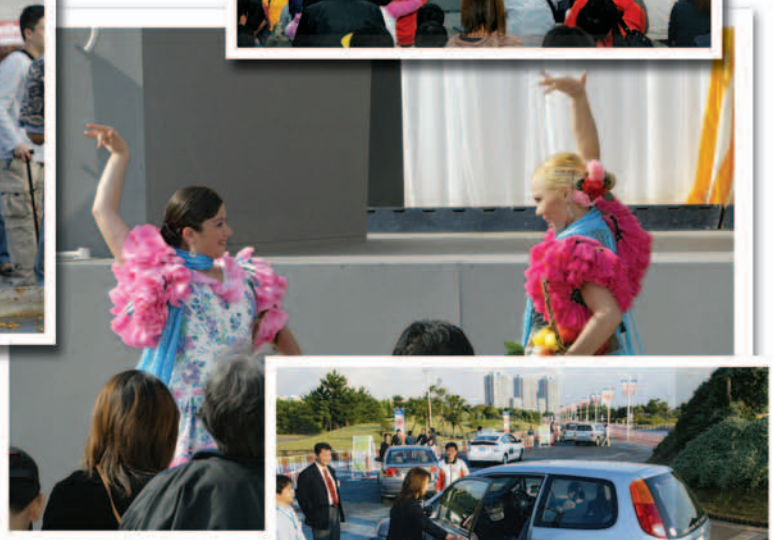
◆名称
第38回東京モーターショー
―働くくるまと福祉車両―（2004年）

◆主催
社団法人 日本自動車工業会

◆会期
平成16年11月2日（火）～11月7日（日）
プレスデー：11月2日（火）
特別招待日：11月2日（火）
一般公開日：11月3日（水）～11月7日（日）

◆会場
幕張メッセ＜日本コンベンションセンター＞

写真でふりかえる第37回東京モーターショー



第37回東京モーターショー・入場者数

月　日	天　候	入場者数	累　計
10月22日（水）<プレスデー>	雨	8,000	8,000
10月23日（木）<プレスデー>	晴／雨	4,300	12,300
入場プレス数合計　12,300人			
10月24日（金）<特別招待日>	晴	47,000	47,000
10月25日（土）<一般公開日>	曇	122,500	169,500
10月26日（日）<一般公開日>	晴	145,000	314,500
10月27日（月）<一般公開日>	曇	84,600	399,100
10月28日（火）<一般公開日>	雨	75,500	474,600
10月29日（水）<一般公開日>	晴	87,100	561,700
10月30日（木）<一般公開日>	晴	85,300	647,000
10月31日（金）<一般公開日>	晴	92,500	739,500
11月1日（土）<一般公開日>	雨／曇	147,600	887,100
11月2日（日）<一般公開日>	晴	206,800	1,093,900
11月3日（月）<一般公開日>	曇／雨	149,500	1,243,400
11月4日（火）<一般公開日>	曇	95,900	1,339,300
11月5日（水）<一般公開日>	曇	81,100	1,420,400
一般入場者数合計　1,420,400人			

同乗試乗会体験者数　16,965人

シンポジウム参加者数　5,446人

献血協力者数　2,285人

骨髄バンクドナー登録者数　239人

編集後記

社団法人 日本自動車工業会
理事　加藤 和彦

半世紀の歴史を持つ東京モーターショーも、時代の変化に応じて、新しい車や技術を見せるだけでなく、「来て」・「見て」・「体感する」ショーへの変身が求められておりました。自工会が初めて企画段階から取り組んだ今回のショーは、お客様の視点から、徹底的にショーのあり方を見直し、東京モーターショーのフルモデルチェンジに敢えて挑戦いたしました。

出品各社の意欲的な展示、「お客様参加・体験型」の様々なイベントや18テーマにわたるシンポジウムなどを通して、業界として情報を発信するだけでなく、お客様からも多くのフィードバックをいただき、本当の意味での“双方向的”なショーにすることができました。今後とも、お客様へのホスピタリティ向上に努め、もっと楽しく、より感動できるショーを提供してまいります。

協力会社一覧

オートウェーブ
SUNTORY
翼システム
ソニー・コンピュータエンタテインメント
昭和シェル石油
mobilecast
Microsoft
TOMY
JT
凸版印刷株式会社

プレスセンター協力会社

プレスセンター協賛

BRIDGESTONE

プレスセンター協力

富士写真フィルム株式会社
日本航空株式会社
アップルコンピュータ株式会社
日本アイ・ビー・エム株式会社
マイクロソフト株式会社
株式会社シマンテック
株式会社ジェイティービー
cellhire plc.
ジャパンタイムズ
サントリー株式会社

東京モーターショーニュース制作協力

富士ゼロックス株式会社
富士ゼロックスオフィスサプライ株式会社

東京モーターショーニュース・スタッフ

監修	金子 昭三
執筆	岩原　拓　大塚 健治　福田 俊之
写真撮影	野澤 廣幸　(株)ヘクトパスカル　(株)イメージサイエンス
翻訳	Richard Walker（(株)ユニカルインターナショナル）
進行管理	(株)ユニカルインターナショナル
デザイン・DTP	澤登 保典（メディアック・ドットコム(株)）
デジタル画像処理	黒田　尚（メディアック・ドットコム(株)）

11月5日の入場者数　81,100人　／　入場者数合計　1,420,400人

クルマは最先端…でも情報活用が
交通渋滞になりませんように。
データマイニングを絡めた、最先端のご提案も承ります。まずはコチラへ。
DocuPlaza（ドキュプラザ）http://www.docu-plaza.com/

Color DocuTech 60
機材協力：富士ゼロックス株式会社
用紙協力：富士ゼロックスオフィスサプライ株式会社
このニュースは「Color DocuTech 60」で、再生コート紙「eCOAT105」に出力しています。
eCOAT105
THE DOCUMENT COMPANY
FUJI XEROX